令和八年　如月　781号

むなかた

目次

令和八年 正月 皇紀二六八六年　2
今月のおまつり　3・4
神宝館だより・みこころ　5
宗像大社歌会詠草　6
御造営奉賛者御芳名　7
7

よって！　毎年二月十七日、宮中をはじめ全国の神社では五穀豊穣を祈る「祈年祭」が取り行われる。そして、春に田植えをし、秋の「新嘗祭（にいなめさい）」で神々にその年の収穫を感謝する。このサイクルが遠い昔から繰り返されてきた▼「祈年祭」は「きねんさい」あるいは「としごいのまつり」と読む。「とし」は稲、「ごい」は祈りである。「神」の字の成り立ちは、「示」の部分は祭壇を意味し、「申」の部分は田に雷が落ちた様子を表していると聞く。古代から稲は神様からの賜りものと意識されていたのであろう▼近年、農業従事者の高齢化と後継者不足等の要因により、この先国内で農業を永続的に続けていくことが難しくなってきており、対応策として、大規模農業への転換、ドローンを使ったスマート農業が行われている。技術の進歩によって昔に比べ人の手があまり掛からなくなった。とはいえ、稲が神様からの賜りものであることに変わりはない。常に感謝の気持ちをもって戴きたいと思う。（菊）

令和八年　正月
皇紀二六八六年

多くの人で溢れる、
　賑やかな辺津宮
島民ら家族が集う、
　和やかな中津宮
神職ただ一人、
　静寂の沖津宮

宗像大社の三宮は、
其々に新しき年を迎えた。

どんな一年になるのか
皆が幸せでありますように

②

③

④

①

古から今へ…不変の祈りで日本の新しき年は始まる

①令和8年1月1日沖ノ島の初日
②令和7年12月31日年内最後の神事、辺津宮大祓式
③令和8年1月1日年明け直ぐの辺津宮
④令和8年1月11日多くの島民が集う中津宮還暦祝い

今月のおまつり

節分祭（せつぶんさい）

二月三日(火)午前十一時

立春の前日を節分といい、季節の変わり目の病気や災害を鬼に見立てて、豆を打って追い払います。

豆打式は本殿の神事の後に特設舞台にて行われます。福豆に加え、お菓子や協賛賞品の当たり券も撒かれ、どなたでも参加できます。

紀元祭（きげんさい）

二月十一日(水)午前十一時

神武天皇が奈良・橿原の地で初代天皇にご即位され、日本が建国された始まりを祝う日です。

神武天皇御即位の大業を仰ぎ、皇室の弥栄と国の安寧を祈念します

祈年祭（きねんさい）

二月十七日（火）午前十一時

秋の収穫に感謝する、新嘗祭（にいなめさい）と対をなす重儀です。

春の耕作始めにあたり、お米を始めとする五穀の豊かな稔り、豊作を祈るお祭りです。

農耕が生活の中心であった時代、豊作を祈ることは国家国民の安泰につながる重要な祭りとされてきました。

天長祭（てんちょうさい）

二月二十三日（月）午前十一時

天皇陛下の御誕生日をお祝いして、御長寿並びに国民の平安をお祈りするお祭りです。

天長とは、天地とともに聖寿の限りなきことを言祝（ことほ）ぐという意味です。

戦前、天皇誕生日は天長節といわれました。奈良時代光仁天皇の宝亀六年（西暦七七五年）に始めて行われた行事です。

神宝館だより 106
八万点ノ国宝収蔵

宗像社と海（七）

宗像大宮司家は海に面した宗像の地を治め、古代より航海術と外交術を培ってきた。中世にはこの特徴を活かし、海外交流を盛んに展開させていく。

史料は享徳三（一四五四）年の「宗像大宮司氏正書案」。第六十七代大宮司である宗像氏正が朝鮮王朝の外交を掌る役人・礼曹判書（外務大臣）に対して送った外交文書で、この時の朝鮮国王・李朝六代端宗に書を進め、通交を求めたものである。この文書は朝鮮国側に渡した文書の控え（案文）であり、後に参照しやすいようにか本文に本来は書かれない返り点や送り仮名がつけられている。一地方勢力である宗像氏の朝鮮通交の史料としても、また当時の外交文書の実例としても大変珍しく貴重な史料である。

本文では第六十代大宮司氏経の通交について触れられているが、朝鮮国側の史料『朝鮮王朝実録』に見える一四一二年の氏経からの使者の記録が宗像氏の朝鮮通交の初見である。この後も宗像氏の朝鮮通交は継続され、その頻度は約百年の間に四十回以上、氏正の次代の大宮司となった氏郷については三十回を越える記録が残されている。（津）

宗像大宮司氏正書案（宗像神社文書）

みこころ

梅のつぼみが膨らみ、さわやかな香りが漂うこの頃いかがお過ごしでしょうか。今年のお正月三箇日は、新春寒波到来により寒さ厳しい中でも数多の方々にご参拝頂き、誠にありがとうございました▼さて、今月三日は当大社で節分祭及び豆打式が執り行われます。私は去年担当者としてご奉仕させて頂きました。豆打式では、大人用と子供用スペースに分かれて豆撒きが行われます。一般的な豆撒きと異なり宗像ならではの海の幸や各会社様のご厚意による商品券等「当り付き福豆」が撒かれ、お子様も楽しく参加しています。節分祭は、季節の変わり目に生じる邪気や疫病を祓い、無病息災と招福を願う全国的に行われる伝統行事です。新年を迎えまだ宗像大社にお参り出来ていない方は、ぜひ節分祭にご参列下さい▼私事ではございますが、今年成人式を迎えました。喜びと同時に、これまで支えてくださった方々に感謝し、そして責任と自覚を持ち、自分らしくこれからの人生を歩んでいきたいと思います▼皆様におかれましては、三寒四温の季節柄、日々の寒暖差にお気をつけてお過ごしください。（官）

第774回　宗像大社歌会詠草

■大西晶子選　■毎月25日〆切（順不同）

いく葉かの欲のかわらけ剥がれ落ち軽やかなれど淋しくもあり　東　雅子

作者は自分を客観視し欲が剥がれたと感じ、気持ちが軽くなったのだ。欲は若い時に強く、生きる目的にもなるので一抹の寂しさをも覚えた作者だろう。「欲のかわらけ」に我欲の感じが出ている。

裏庭のどうだんつつじかがり火の様に萌え立ち亡き姉見送る　本田エリナ

満天星躑躅は秋の紅葉が美しい。亡き人の門出だが真っ赤な満天星躑躅に見送られる景は美しい。「萌える」は芽吹きの意味なので〈燃える〉とするか三・四句を〈かがり火の色に染まりて〉としては。

一行で終る日記で日を終る今日と同じ明日ならいいと　吉﨑美沙子

あまり変化のない毎日を送る作者。日記にも特に書くことがないので一行で終わるのだ。平凡でも平穏に過ぎた今日と同じような日々が続くことを願う気持ちが、上手く三十一音に収められている。

海岸に打ち寄せる波不思議かな波長を合わせ休む事なく　佐藤　守

浜べに寄せる波を見て、波が月の引力で満ち引きすることは知識として知っていてもやはり不思議に思う作者。三句の助動詞「かな」には詠嘆の意味がある。静かな感慨なら〈なり〉も使える。

レタスの葉二枚キリキリ洗う朝オープンサンドは君と二人で　早川　祥三

「君」は作者の夫人だろう。レタスをしっかり洗い、朝食のオープンサンドを作っているのだ。朝のレタスの爽やかさと、男性の作者が夫人のために料理するのも今の時代らしくて良い。

明の字は「窓」と「月」だと辞書にある卒業式の歌がなつかしい　山﨑　公俊

明の字の日の部分は古くは窓を表す字だったので、明は暗い場所を窓から月光が射すように照らすという意味があるそうだ。作者は窓から「蛍の光」の歌詞を連想したのだろうか。

子が取るとくるっと巻いた褐色の落ち葉もすぐに飛行機と化す　堺　玲子

作者のお子さんは大の飛行機好きで、何か飛行機に似た形のものを見つけると飛行機になぞらえて遊ぶのだろう。褐色の落ち葉の描写が丁寧なので歌の意味が分かりやすく子供の連想力がよくわかる。

◆選者詠

寒き夜は白菜とろとろ煮込みたる鍋かこみたし熱燗汲んで

スーパーで売る春菊の値下がりが冬の終わりの近きを告げる

第744回　俳句

物価高おせちもかたい旨味かな　早川　祥三

御造営奉賛者御芳名

（令和七年十二月）（順不同・敬称略）

五〇、〇〇〇円

オオツカ　アヤカ

一五、〇〇〇円

千代田区　髙梨　実

一〇、〇〇〇円

津　市　奥山　明伸

津　市　㈱クレスメゾン　代表取締役　深覚喰憲

北佐久郡　川田　春華

五、〇〇〇円

横浜市　成井　晃子

田川市　松本智加子

八女市　吉泉　正幸

一宮市　後藤　祐介

豊中市　村上　公子

春日市　松尾　嘉三

福岡市　山崎　智之

那覇市　平良さやか

中頭郡　吉村　友見

飯塚市　内山　勝裕

都留市　小松崎　茂

千葉市　株式会社ＭＡＪＩ

千葉市　合同会社和多志

四、〇〇〇円

北　区　佐藤　正明

三、〇〇〇円

北葛城郡　ヒーリングサロン遊楽館　雪ぐらみ

糸島市　國分　一美

大阪市　大将軍神社研究会

二、〇〇〇円

太宰府市　大江田美子

北九州市　加藤　秀明

福岡市　田中　環

福岡市　今宮　浩司

堺　市　西岡　忠士

市原市　慈道陽一郎

刈谷市　志賀　秀子

長崎市　山本　好治

桜川市　髙松　惠子

柳川市　㈱川口建設　川口智秀

北　区　佐藤　正明

スズキクニオ

お詫びと訂正

先月号（令和八年睦月780号）2ページ3段目13行に誤字がありましたのでお詫びして訂正致します。（誤）男尊女子（正）男尊女卑

むなかた
如月（きさらぎ） 第781号
2026年2月1日発行（月刊）／宗像大社　〒811―3505　福岡県宗像市田島2331　電話（0940）62―1311（代）　https://www.munakata-taisha.or.jp/

3月 まつりごよみ

1日	総社月次祭 引続き　高宮祭、第二宮第三宮祭 宗像護国神社祭	午前11時
4日	氏貞公墓前祭（神式） 宗像市上八1424-3	午前11時 氏貞公墓前
15日	総社月次祭 引続き　高宮祭、第二宮第三宮祭	午前11時
19日	松尾神社祭	午前11時
20日	春季皇霊殿遙拝式 宗像祖霊社春季大祭	午前10時 午前11時
31日	春季大祭宵宮祭	午後６時

編集後記

本年も辺津宮では三が日で約十万人の参拝者を迎え、賑やかに新年を迎えることができた。数だけを見れば、宗像市の人口とほぼ同数の参拝を頂いていることになり、日本人の八割が、お正月に神社へ初詣に行くと言われていることを改めて実感した▼神社は「空間信仰」、感じる宗教であると言われる。本殿に鎮座される神様の御姿は目には見えない。しかし神社という非日常の空間の中で、一人一人が自らの心に神様を感じ、祈りを捧げている▼日本人は「イエス、ノーをはっきり言わない民族」と評されることがあるが、それは優柔不断さではなく、相手の気持ちを思い、感じ取る感性の表れでもある。和をもって尊しとなす、和合を重んじるといった精神は、古来より日本人の暮らしと社会の根底に息づき、その姿は今も神社に見ることが出来る▼他者に寄り添い、見えないものを感じ、調和を大切にする日本人特有の民族性と感覚は、分断や対立が深まる現代社会において、重要な価値感ではないか…。（鈴）

宗像大社